

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200938		
法人名	社会福祉法人 青山里会		
事業所名	四郷グループホーム		
所在地	三重県四日市市西日野町小溝野4014		
自己評価作成日	令和4年9月5日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470200938-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigvosvoCd=2470200938-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 4 年 10 月 3 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内には、在宅介護支援センター・デイサービス・ヘルパーステーション・サテライト特養があり、合同で防火訓練を行い、非常時に協力体制がとられている。ご利用者がその人らしく笑顔で暮らせるよう、お一人おひとりにあったケアを行うことを心掛けて「一人ひとりを尊重し笑顔あふれる家」をめざしている。敷地内の畑では、野菜作り、玄関先では四季折々の花作りをし縁台を置き憩いの場となっている。食事・おやつ作りでは季節感を楽しみ、お誕生日には、食べたいものをリクエストしていただき「ここに来て良かった。」と思ってもらえるよう、一緒に楽しみや出来る事を探して生活している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四日市あすなろう鉄道西日野駅から南へ徒歩で10分にある事業所である。敷地内に在宅介護支援センター・デイサービス・サテライト特養があり交流がある。利用者は食事の準備や後片付け、掃除・洗濯物干し・洗濯物たたみ・花への水やり・畑での野菜作りや収穫等、自分のペースで生活をしている。管理者・職員は、自治会長・民生委員・行政・医師等の関係者や利用者家族の理解と協力により、利用者が豊かで安心して生活できる事業所を目指して支援をしている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人ひとりを尊重し笑顔あふれる家」を理念に掲げている。利用者・家族に「ここに来てよかった。」と思えるよう一人ひとりに目を向ける。	理念の「一人ひとりを尊重し笑顔にあふれる家」を玄関の職員が目につきやすい場所に掲示してある。管理者・職員は理念を共有しながら、利用者が毎日笑顔で安心して暮らせるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症予防のため現在は、控えている。	自治会に加入しており、以前は地域の文化祭や催し物に参加していたが、コロナ禍で現在は参加していない。コロナが収束したら従来通り参加していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現状、地域貢献できていないが近くに中学校、高校があるので福祉体験や職場体験。住宅もたくさんあるので認知症の理解を一緒に深めたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・自治会・民生委員などのメンバーで2ヶ月ごとに開催していたが、現在は当施設の取り組みや介護報告などを郵便で送り情報提供者し助言や意見をいただいている。	行政・自治会長・民生委員の参加で2か月毎に開催していたが、コロナ禍で開催出来ず文書報告での運営推進会議となっている。各委員から書面で意見や提案を頂き事業所の運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から密に連絡をとる関係性はないが、情報や案内はいただいている。困り事があればその都度電話やメールで相談・助言を得ている。	管理者が必要時に市介護保険課に出向いて相談や助言をもらっていたが、コロナ禍で電話やFAX、メールでの対応が増えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3か月ごとに開催している。法人・拠点内で研修があり動画視聴・オンライン研修で日頃のケアについての見直しをしている。	3ヶ月毎に身体拘束適正化委員会を開催している。法人内・事業所で研修を実施しており、言葉による拘束についても職員間で話し合いをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人・拠点の研修や委員会で何が虐待になるのか、知らず知らずのうちに不適切ケアをしていないか注意を払い防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を利用している利用者は、みえませんが対応できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書の読み合わせをし疑問や不安な点など説明している。また、後日でも遠慮なくお話しくださるよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を置いているものの活用されず、家族の訪問時・電話の時など困りごとやクレームが無いとお聞きして反映するよう努めている。	コロナ禍で面会が減少し、家族の意見を聞けなくなっている。「四郷グループホーム便り」に担当職員のコメントと利用者の状況報告を記入し、家族に郵送して意見や要望を聞くようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日頃から現場に入って仕事しており、職員は何時でも相談ができる状態である。朝・夕の申し送りや毎月の職員会議でも意見や提案を聞き業務改善につなげている。	管理者は、職員の意見や提案が言い易い人間関係や環境づくりを心掛けている。日常会話からも利用者支援や運営についての意見や提案があり、事業所運営に反映をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入により職員一人ひとりが目標や課題を明確にし、お互い向上心を持って働けるような環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修受講は、管理者の推薦・職種部門長の推薦・命令となっている。職員に必要な研修が受講でき受講後は報告書の提出があり振り返りがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内には、4つのグループホームがあり毎月情報交換し優れている点は、取り入れながらサービスの向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査時に不安なこと、分からない事などゆっくりお話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、心配事・要望など把握し安心していただける雰囲気を作り丁寧に対応するよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われるサービスを提案いろいろな選択肢の中から本人に相応しいサービスを提供できるよう努めている。また、必要時には関係者に助言・アドバイスをもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の様々な場面においてそれぞれ得意なところで参加し助け合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、様子や経過報告している。お互いに何でも相談できる関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚やお孫さんから贈り物や手紙が届いたら、電話や手紙でお礼の気持ちを伝えている。	以前は外出や外泊で家族が関係継続の役割をしていたが、コロナ禍で関係継続の支援が困難である。コロナ収束後は回想法を活用して家族の理解と協力により、馴染みの人や場との関係を保ちながら支援をしていきたいと考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う合わないの関係を把握している。関係がスムーズにいくよう座席を配置し職員は会話の中に入り和やかに過ごせるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に出会った時は、ご挨拶し現状を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の話をしっかり聞き、入居後の生活に関する思いを引き出し些細な事でも楽しんでもらえるよう実践している。	職員は日常の会話、夜勤時や入浴時等1対1で支援する時に、利用者の思いや意向を把握するようにしている。把握困難な利用者は、表情や仕草・行動から把握するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族・担当ケアマネージャーから情報収集し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や状況を必ず申し送りして把握している。やりたい事が実行できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に関する家族との話し合いは、コロナ禍の影響で電話が多いがそれをもとに意向に取り入れながらモニタリングしている。7領域の課題分析・センター方式を活用している。	3ヶ月毎にモニタリングを実施している。介護支援専門員が、医師・担当職員・家族の意見を聞いて6ヶ月毎に計画の見直しを行い、介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や申し送りで情報共有し把握している。小さなことでも気になったことはその都度話し合い適宜ケアプランに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が体調の悪い時は、職員が受診に同行している。病状が変化した時は、同敷地内の看護師に相談し診てもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナのため控えているがコロナが収束後は、地域の活動に参加したいと思っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医に受診、往診いただいている。ご家族と病状を相談しながら利用者にとって適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者全員が従来からのかかりつけ医で、家族の協力を得ながら受診しており、数名は訪問診療を利用している。また、同敷地内のサテライト特養と連携、緊急時には協力が得られ、利用者が常に適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	わからないことがあれば、拠点の看護師・往診でお世話になっている看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医療連携の担当者、家族と連絡を密にとり状況を職員全員で把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族に希望を聞いている。病状の変化については早めに家族・医師に相談している。	入居時に利用者の看取りや重度化した場合の指針を説明をしている。重度化した場合は、医師・管理者・家族が相談し対応をしている。現在看取り支援を希望する利用者が1名いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・救急対応について看護師から講習してもらい実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(3月・10月)、火災・地震の想定で避難訓練をしている。火災・自然災害のマニュアル、BCPの研修を受講している。備蓄リストが作られローリングストックをしている。停電時には、発電機があり対応できる。	年に2回、敷地内の他の事業所と合同で防災訓練を実施している。水・食料等の備蓄や防災用品等の設置、72時間対応の発電機がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	わかりやすく、丁寧な声掛けを心掛けている。言葉遣いや対応を振り返ったり、どのように対応したらよいか職員同士で話し合っている。	呼称はさん付けで呼んでいる。常に優しい声掛けや丁寧な言葉遣いでプライバシーを損ねないよう支援をしている。ドアと居室の間にカーテンが設置してある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日10時のお茶の時間には、コーヒー・レモンティー・昆布茶・牛乳・ココアなど、いろいろなメニューからその日飲みたい物を選んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を見守りながら自発的な希望が見つけられるよう関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	「今日は、どの服を着ますか？」と選択してもらっている。また、ご自分で好きな服を着ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じたメニュー・食べたいものをリクエストしてもらっている。一緒に盛り付けたり、洗い物をしている。食器は、一人ひとりご自分の食器を使用している。	業者が立てた献立で、業者発注の食材を事業所で調理をしている。事業所の畑で収穫した季節感のある野菜の料理を添えている。利用者は、おはぎやクッキー・スイートポテト等手作りおやつを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎食チェックしている。食事量が少ない利用者は、医師に相談し栄養剤が処方されている。好みの食べ物や飲料を持参している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの理解ができず怒り出す方もみえるが、声掛け誘導し口腔ケアをしている。義歯の方は、洗浄剤を使用し清潔にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレのタイミングを把握している。また、ソワソワしたら一緒にトイレまで行き見守りをしている。プライドが傷つかないように配慮している。	布パンツを使用している利用者が9名おり、排泄記録表を職員が共有しながら、利用者全員がトイレで排泄出来るように支援をしている。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者が1名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・プルーンを積極的に取り入れお腹のマッサージをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴したい方、あまりお風呂が好きでない方がみえます。無理にすすめることなく気持ちよく入浴してもらっている。	2日に一回、午前中に入浴をしている。浴室は広く、埋め込みの式の手すりがある浴槽で安全である。季節を感じる菖蒲湯やゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠気のある時は、休んでいただいている。安心して休んでもらえるよう急かすことなくゆったりした気持ちで過ごしている。寝具は、季節に応じたもので清潔にしている。お気に入りの寝具の方もみえる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の内容を把握している。状態の変化があれば、医師に相談している。薬の増減があれば、申し送りで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分にできることがあればと、食事の盛り付け・洗濯。抹茶を点でて飲むのが好きな方がみえいつでも対応できるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えているが、美容院に行くのを楽しみにしている。室内でレクリエーション、作品作りをしている。玄関先の椅子に座って外気浴や花の水やりや野菜の観察・収穫を楽しむ。	コロナ禍で花見やドライブ等外出が出来ていない。事業所周辺の散歩や玄関前での外気浴、花や野菜の水やりと収穫をしている。	コロナ禍で外出は困難と思うが、近場での季節の花見や少人数によるドライブでの車窓からの見学等を実施することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使うことはないが、持っていないと不安になるのをご自分で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で家族の声が聞きなくなったら電話の取りつぎをしている。手紙が書ける方は、書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度・湿度計で快適な空間を意識している。庭先で咲いた花や壁飾りをしている。	リビング兼食堂に利用者と職員が作成した季節の貼り絵や作品が掲示してある。また、季節の生け花が各所に生けてある。小まめな清掃・換気、サーキュレーターの設定による除湿や加湿による室温管理等、感染症対策に努めており、利用者が快適に過ごせる環境づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	アクティビティのスペースには、ソファ・テレビを置き自由に過ごせる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洗面台・クローゼット・ベッド・エアコンが設置してある。テレビ・ラジオ・布団・椅子など馴染みのあるもの、思い出のあるものを居室に置いている。	洗面台・クローゼット・ベッド・エアコンが設置され、使い慣れた家具やテーブル・椅子・テレビ等が持ち込まれている。写真や利用者の作品等が置いてあり、掃除も行き届き、整理整頓された清潔で明るい居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は、わかりやすいように表示している。トイレの電気は、つけたままにしている。		